

【宮崎県納税貯蓄組合連合会会長賞】

幸せのバトンタッチ

宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校

三年 岩坪 愛子

私は、三人兄弟の一番年上である。

母は四人兄弟、祖母は五人兄弟、そう祖母は何と、七人兄弟だという。七人と聞いてびっくりしたが、当時は珍しい人数ではなかったようだ。私は祖母に、

「五人兄弟って、すごいね。」

と言うと、

「昔はみんな、多かったとよ。今は少なかもんね。でも、今は良かよ。子どもが病氣して病院行っても、お金は少しで済むし、児童手当とかもあるんやろ。今は本当、子どもが大事にされとるよね。」

と言った。私は、

（えっ、そうなの？）

と心の中で思ったが、何も知らないことが恥ずかしくて、黙っていた。

それから、母に聞いたり、調べたりしていくうちに、祖母が言ったことが腑に落ちた。

「大事にされている〓税金が使われている」ことを知ったのだ。

宮崎市では、子ども医療費助成制度により、中学三年まで自己負担額が月額二百円で済んでいること、薬局や入院は無料であること、毎月、児童手当が支給されていることが分かった。また、宮崎市では、民生費として、高齢者や障がい者、児童の福祉事業等に、市税全体の五割以上が使われていることも知った。他にも、我が家の前は公園だが、定期的な草刈りや樹木の剪定、トイレットペーパーや水道代も税金で賄われていた。

税金は実に身近な所で、当たり前のように私たちの生活を支えてくれていた。特に、私たち子どもに、たくさんのお金があてられていることに、「みんなで、子どもたちの将来を守っていこう」という思いが込められているようで、とてもありがたく感じた。ここに生まれて良かったと思った。

私に身近な税金は消費税だが、今までは、（何で十%もかけられているのだろう）と思っていたし、それがどのように使われているかなど考えもしなかった。

しかし、今回税金について考えたことで、私は、顔を見たこともないたくさんの人たちのおかげで、今こうして生きていることに気づいた。

「大事にされている〓支えられている」

だから私も、きちんと税金を納めて、誰かのことも支えたいと思う。ここに生まれて良かったと思う誰かが、一人でも増えたらいいと思う。「自分さえ良ければ」な社会ではなく、みんなで支えあつていく、税という「幸せのバトンタッチ」を大事にし、未来へつなげていきたい。